六月二十九日夕刊

常磐毎日新聞

日曜祭日の翌日休刊

定價一部金貳錢一ケ月金五拾錢郵税五厘
廣告料五號十行字詰一行金五拾錢
發行人兼印刷人　川崎文治
發行所　福島縣石城郡平町長橋町三五　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

道具と惡用と形式と

大島正德

一

自己の心を僞つて金を出し、自己の心を僞つて金錢を奪ふ。そしてその間に語られたるものは道德的言辭である。即ち道德を食ひ物にして、その生活の資を得んとするものである。さういふことは、健全な社會生活に於ては到底行ひ得ざることであるが、社會の道德的な法律的な制裁が十分に行はれなくなると、かゝる現象が生ずる。合法的手段は無視して、道德的言辭の下に暴力的制裁を潛ませて金錢を强奪しようとする。かゝる行爲が道德の賊なることは勿論、かゝる行爲が頻繁に行はれてゐるところには社會は健全に發達しない。

これは道德的言辭を食ひ物にするについて、後ろに暴力的制裁を潛ませ、積極的に金錢を以て謝罪せしめようとするのであるが、道德的言說を食ひ物にしてゐる行爲は他に幾らでもある暴力を以て道德的言辭を弄して威嚇しようとするのではなくても、私かに自己の利益になるやうに、種々道德的言辭を弄して、他人の行爲を自己の利益に導かうとするものは幾らもある。これは僞善者の行爲で、何時の世にもなか〳〵絶え難いが、積極的に道德的言辭を金錢强奪の手段とするが如きは、いよいよ社會の道心の衰へたことを示すものである。何故にかくの如くなつたかといふことについては更に深く反省し、考察すべきことも多々あるが、さういふ根本的な問題はこゝにはしばらく預りにする

★明日の献立★

【朝】味噌汁――ねぎ　小付のり佃煮

【晝】クヲブコロッケ

【晩】親子燒き　そめおろし　蓮根ごまあへ

少くも今日の教育が眞個の人格的精神に食ひ入つて行はれてゐない一つの證據であることはこゝに云ひ得る

二

以上は道德的言辭を食ひ物にするのであるが、又法律を食ひ物にするものもなか〳〵多い。私一個の經驗から言つても、一體、法律による訴訟沙汰は、果して法律は善人を守るつもりであるか、惡人を守るつもりであるか分らぬとさへ思はれる事もある。善人は自分の道德的良心に訴へて考へるのであつて、法律的にはこれこれしかじかだから、そんなに控えめにしないでも良いとか、そんなに心配するにも及ばぬとかいふ樣にあまり考へぬ。先づ以て自己の社會的道德的良心に訴へて行く。法律を使つて自己の非を辯護しやうといふやうな考は寸毫もない。理不盡に攻められれば辯護士にでも賴んで、何んとか法律的な抗辯の方法も見出さうとするが、普通にはさう考へない。況んや私利だけをはかつて、法律づくめの理屈で押し通さうとはしない。しかるに横着な根性を有するあのは、自己の良心に訴へて、それが善であるか、惡であるか、又社會的生活に對して合理的であるか否かなどを考へない、それよりは、先づ以て自分の利益になるように損にならぬ樣に法律の文句に訴へて形式的に理屈が立つならば、どし〳〵やるがよい。可哀想だとか氣の毒だとかそれでは辛酷だとか惡辣だとかいふことには思ひ至らず道德的社會的人情は無視して返すべきものは返せ渡すべき物は渡せと迫つてゆく。

僅かの氷で非常に早くよく冷える！

丸ほん冷藏器

御家庭にも御營業にも最も理想的な冷藏器……

今年は外壁の絶緣裝置を特に完全に改良を加へましたので、より一層僅かの氷で非常によく冷える樣になりました。內部の構造にも一大改良を加へましたので排水が良くすべて便利になりました爲に貯藏される期間も延長されました。價格は……精選した材料を完備した製法に依る大量製產の爲良品を廉價に御提供する事が出來ます。

丸ほん新家庭型……金十五圓より
丸ほん新型六號……金七十圓より

▼各種豐富陳列)(御一覽を願ます

株式會社(本)丸ほん商店

營業所　平町三丁目一六　電話三五九番　振替東京二一七二四
製作所　平町新田前　電話一八二番

夏は來り

本年も清新なキクチの……
◇白　靴　を　二五〇ヨリ
六　圓マデ
野に山に新製耐久力の……
◇ハイキング靴を　七五〇ヨリ
婦人洋裝にスマートな……
◇ハイヒール靴を　七五〇ヨリ

平四驛通り
菊地クツカバン店
電六五九

高久病院

院長　醫學士　高久忠
副院長　新潟醫學士　赤羽清
藥局長　藥劑師　佐竹菊雄
平町田町　電話五一三番
內科小兒科　外科花柳病科　耳鼻咽喉科　レントゲン科

毎度御引立を戴いてゐる藤寅では例年通り冷タイ美味しい飲物

アイスクリーム　アヅキアイス
ミルクセーキ　ソーダ水
ミツ豆　クリームソーダ
其他氷水各種

相初めました是非夏の夕の御散歩歸へりに御立寄り下さい

平一丁目
出前迅速
藤寅
電話一四一番

新車御披露

素晴しい乘心地の!!!
三十五年式流線型新車が參りました
是非御試乘御利用の程を御願申します

平二
三井タクシー
電話八六五番

一、齒科一般　保存科補綴科　工科　齒列矯正科　小兒齒科　齒槽膿漏科　口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
平町田町(松月堂向と)
電話五〇九番
院長　日本齒科醫學士　中野惠次
日本齒科醫學士　西川誠

面目を一新する 鮫川橋設計

工費卅万明年起工

植田町地内國道の鮫川橋は豫てより地元關係町村間で是が架替方を要望して居たが平土木監督所では明年度事業として着手すべく目下係員が設計を急いで居るが是に依ると新鮫川橋は工費三十萬圓でモダンコンクリート橋と化し橋桁も現在の百二十米が四百米に延長巾員三米も六米に増巾され全く面目が一新する筈である明後七月一日よりなので糸針等の用意怠りなく待機して居るが郡下の釣場である鮫川、四時川、上遠野川は既記の如く發育遡上ぶり良く殊に五六寸のが例年にない大量を示して居ると

川部信用組合

來月から更生

川部村信用組合は業績不振で去月中より休止したが今回新らたに三百五十名、八百口の新組員を募集し七月上旬より再び業務を繼續する事になつた

鮎は躍り 腕は鳴る

愈よ解禁日

郡下の大公望連は鮎解禁も十四圓、平窪村農會五十五圓、計百四十九圓と決定した旨本日郡農會に通知された

出荷約二萬貫

賣上七萬千圓を突破

春の四倉市場成績

四倉繭市場は昨廿八日の取引を最終に廿九日限り取引中止となつたが本月十五日開場以來の春蠶取引高は一萬九千八百六貫六十匁、是代金七萬千五百二十圓二十二錢を見た

藁加工の助成

郡下各町村農會で豫て縣へ申請した副業奬勵交附金の内藁加工助成費は植田町農會九十四圓、平窪村農會五十五圓、計百四十九圓と決定した

三千の簡閲點呼

石城郡下の日割決る

本年度郡下の陸軍簡閲点呼は八月十三日の三坂村を皮切りに十九日間に亘り三十八ケ町村、二千九百五十名に就いて執行されるが執行官は磐中配屬將校大井川中佐及び附屬下士官として輜重兵曹長引地森の兩氏と決定したが各町村の日割左の如くである

(八月十三日)中三坂校三坂澤渡(十四日)川前校川前(十五日)下小川橋上下小川(十六日)平第一平(十七日)平第一神谷　平窪(十八日)飯野校高久飯野　鹿島(十九日)江名校豊間　江名(廿一日)小名濱校玉川　小名濱(廿二日)泉校渡邊　泉(廿三日)湯本新町校磐崎　湯本(廿四日)内郷高坂校内郷(廿五日)好間第一校永戸　好間　箕輪　廿六日)田人校貝泊　田人　荷路夫　石住(廿八日)勿來校錦　川部　勿來(廿九日)植田校山田　植田

磐中練習勝つ

磐中對平商の野球練習試合は昨廿八日午後三時磐中球場で擧行されたが平商は投手はじめ三名の選手不出場のためワンサイドゲームとなり十二對五で磐中勝つ

永戸村診療所

永戸村は三井、三菱の寄附割當により醫療診療所を工費千五百圓で本月十七日より着工中の處二階建事務所の基礎が大体出來上つたので昨廿八日午後二時から工事關係者を招ぎ上棟式を行つた

車馬止め

水道敷替工事

平町水道部は役場前から田町梅ノ湯迄七月一日から十日間水道敷替工事を行ふので期間中は車馬通行止を行ふ

滿洲農業移民

川前村赤塚高造君は過日福島で詮衡の第四次滿洲農業移民に採用された

市制財政調査の 道草物語 (十三)

川崎文治

× ×

翌朝は大阪へ。優雅な京都に心醉して來た眼に映る大阪は、煤と埃に塗れて、餘りに殺風景な現實暴露だ。夢幻の京都の『靜の美』に對して、現實の大阪は、『動の力』を以つて迫る、甚だしい兩極端の存在だ、われ等一行は、驛頭に寄せては返すタクシーの波に呑まれて、府廳へと走る。

× ×

既に、京都の引田課長から、通報のあつた事とて、所用も寸時、吏員の懇切な案内で造幣局に向ふ、暫らく門前の休憩所で待ち、案内者に人員の点呼を受けて工場に入る、丁度劇場の二階桟敷の樣な所から下を覗いて參觀するのだが、貨幣の產聲が耳を聾し、案内の説明もハツキリ聞き取れない、見せられたのは銅貨ばかり造る所。帶の樣な細長い銅の板が何千枚と云ふ程、積み重ねられてあるのが、片ッ端から、機械に差し込まれると、今度は丸い穴が明いて出る、菓子のクラッカーでも作る樣な感じだ、模樣を刻む機械、周圍にギザ〳〵を付ける機械、重量を衡る機械、包裝する機械等々、そして其處に働く職工の人々。機械の油と人の汗とが相錯綜して渦卷く間に、何千圓か何萬圓かの銅貨が盛んに生み出される、是れが我々の墓口に納る迄の苦勞も、並み大抵のものではないが、さて斯ふして見るに、金を作り出す工程も、仲々穩やかなものではない、

× ×

豊太閤ッ玉の大きさを思はせる、デカイ石垣の間を大阪城跡に至る。時間がないので天主閣には昇らなかつたが、脚下に擴がる大阪市街は、雜然として煤煙の間に霞み、資本主義王國の殿堂を誇る白亞のビルディングの氾濫、そして此の大都市の脈打つ騒音の喚き、豆つぶ程に見ゆる人々の足の運びの鋭さよ……、いま大阪は軍需インフレの眞ッ唯中に、大きくのた打つ怪物の樣に、白日の下に躍つて居る、

× ×

われ等は、その心臓の中に自動車を駈つて、飛び込んだ、市街に並び立つ家の悉くが、灰色な埃の一色に塗り潰され、幾條かの溝渠はドス黑く澱んで居る、其處には、潑剌たる人の躍動はあつても、清新な空氣の微動すらない、總べてが鬪爭の巷、血みどろの喘ぎだ。連日の慌しい旅に疲れた一行の神經には、餘りに刺戟が深刻過ぎる、僕は遂に、拂ひども襲ひ寄る睡魔の俘虜となつて、中之島あたりから夢現の境に入り、道頓堀は白河夜船、同行の誰かに肯かされて、重い瞼を見開けば、既に自動車は大軌一鐵の前に、爆音の囂りを鎮めて居た。

東京短期(本日前場)

寄付　大引　高値　安値

東新	一三五五	一三四六	一三八	一三四五
大新	八四六	八三八	八四八	八三五
鐘紡	二二九	二二四	二二九	二二四
新鉱	一三一	一三二	一三二	一三二
日紡清	—	一〇九六	一〇九七	一〇九五
帝人	七〇九	七〇九	七一〇	七〇八
レーヨン	六四〇	六三七	六四〇	六三〇
日魯	六五〇	六四五	六五二	六四〇
北炭	五六	五六六	五九七	五五五
日鑛	三九七	三九三	三九七	三九〇
三菱	一〇九	一〇六三	一〇七九	一〇二
日石	三九一	三九〇	三九一	三八九
日産	七四六	一三三	七五一	七三
鋼管	九二四	九一一	九三〇	九一七
人肥	四二九	四二九	四二七	四二七
東電	四五五	四五五	四五五	四二四
日電	五四二	—	五四二	—
新舟	一五〇	一五〇	一五〇	—
南滿	六二八	—	六二八	—
新南滿	二六二	二六〇	二六〇	—
日糖	五七三	五七三	五七三	—
明糖	—	一〇五九	一〇六〇	一〇五九
王子	—	一〇四八	一〇四八	一〇四七
ビール	三六九	三七〇	三六八	三六八
淺野	二二五	二二六	二二八	二二五

期米

東京　六月期　七月期　八月期

一節	三〇四五	三〇三六	三〇三五
二節	〃三〇	〃三一	〃三〇
三節	〃三三	〃三九	〃三四
四節	〃三七	〃三九	〃三五
五節	〃三二	〃三九	〃四八
六節	〃三〇	〃三一	〃四四
七節	〃三六	〃三〇	〃四〇
八節	〃三六	〃三〇	〃三九
九節	〃三六	〃三〇	〃四〇
十節			〃三八

大阪　八月期

一節	三〇三五
二節	〃三〇
三節	〃三五
四節	〃三四
五節	〃三五
六節	〃三〇
七節	〃三〇
八節	〃三〇
九節	〃三〇
十節	〃三七

田町・丸井株式店調(電話四六番)

藤沼醫院

平町・紺屋町　電話五〇七番

平町人事

□出生

△長橋町四一　今銀一郎氏二男岩夫

藥局開設御通知

當店康雄儀明治藥學專門學校卒業後東京帝國大學病院模範藥局に勤務致居候處今回皆樣よりの切なるお奬めに依り藥局增設のため店舗改築致居候間當分裏にて營業を續け居候失禮乍ら紙上を以て此段御通知申上候尚御用の御方樣は當宅裏に御廻り被下樣折合つて御願申上候裏にて御不便の不行届の点は暫時御勘辨之程奉懇願候

平町古鍛冶町十番地縣社ノ下

阿康藥局

電話四四番

店主　阿部康五郎

明治藥學士　藥劑士　阿部康雄

逃げ遅れた坑夫 遂に失明

一人は全身に重傷を負ふ 綴坑内の椿事

去廿四日午後六時頃内郷村磐城炭鑛綴坑内でダイナマイト十三本を裝置して爆發作業中危險信號を知りながら避難せずに居た坑夫同村大字綴字堀坂半澤清（二九）同字宮澤川口飯場内安藤春（一九）の兩君は十一發目のダイナマイトが近くで爆發した爲め刎ね飛ばされ半澤は右眼を失明し安藤は全身に大火傷を受けて悶倒して居るのを救助され炭鑛病院で應急手當を受けた結果兩名共生命は取止めた

漁船の機關士

小名濱町水産試驗場は七月廿五日より一週間漁船機關士養成講習會を開くが受講資格は滿二十才以上で一年以上の乘船及び一年以上の工場履歷を要するものであると

貸本を種に 女房を脅かす

▽……小名濱のダニ公判へ

過般の平署のダニ狩に檢擧された小名濱町字下明神町七無職前科一犯立花美好（四八）は取調べの結果左記詐欺恐喝事實判明起訴と決定近く平區香西判事係り白水檢事立會山野邊辯護士列席で公判開廷される

同人は昭和八年十月中旬頃同町仲町門井繁作が同町横町上野臺鶴次に賃銀の殘金二十圓取分あるのを聞込み依頼された如く裝つて上野臺の妻を脅喝し五圓をせしめ更に本年二月中泉村瀧尻農要之助長男美代治より鹿島村下倉持三島五郎へ返濟する金を横領したものである

超特作の航空映畫

松平歌手によき伴奏者

けふ獨唱と映畫の夕

平町青年團資金造成の『獨唱と映畫の夕』は愈々今夕六時半（六時開場）より聚樂館にて催されるが松平晃氏は既記のプログラムを歌ふピアノ伴奏者は同氏のよき伴侶であるオロンビア專屬ピアニスト徳川清氏であると、尚上映の『朝やけ』はウファー社が世界に誇る超特作の航空映畫の由

無錢飲食 懲役一年

平町古鍛冶町二九生れ詐欺窃盗横領前科四犯洋服裁縫業田中幸次郎（三九）は廿八日福島區廷で詐欺罪により氏家判事より即決懲役一年の言渡しを受けた、同人は福島市陳場町箱岩洋服店に雇はれ中本年五月九日より六月二十三日までの間に早稲田料理店政野屋こと向坂シゲ方外數ヶ所で三十二圓九十七錢の無錢飲食をしたものである

殴り込むと脅し 千餘圓を絞る

昭和人絹の請負を種に 一味植田署に檢擧

東京市荒川區町屋一ノ九〇土木請負業鈴木甚太郎（三六）は吉田清（二六）と共謀石城郡錦村昭和人絹會社專用軌道敷設請負に山形下請負東京市三河島町居住三浦庄次郎に對し工事をおれによこさなければ乾分と共に殴り込みをなすと脅かし前後五回に亘つて八百圓を恐喝した外、植田町土木請負業中山吉之助氏を恐喝五百圓をせしめたこと植田署で探知二十六日植田署香内刑事が上京、二十七日朝寝込みを襲つて鈴木を檢擧したが吉田は既に風を喰つて逃走したので鈴木のみを引致目下嚴重取調中

小島の賭博

一網五名逮捕

内郷村大字小島字新町居住農山木元次（四二）は昨廿八日午後四時頃自宅で同人初め好間村農阿部喜平（四〇）内郷村高橋儀三郎（三六）鈴木金太郎（三六）松本高次郎（三六）の五名で花札賭博の開帳中駐在所員に踏込まれて檢擧された

平裁判たより

△草野村大字泉崎字中島三番地自動車運轉助手片寄實（二）は去る廿五日午前十時四十分頃無免許にて自動車を運轉草野驛前附近で通行中の同村下神富字内宿三十二齊藤愛を轢き倒し全治二ケ月の右側下肢挫創を負はし今廿九日平區香西判事より自動車取締令違反として略式罰金八十圓に處された

△石城郡内郷村大字町田八十二炭礦雜夫遠藤泰雄（二二）は去る四月十七日午後六時頃磐炭山神社境で醉餘ガラス一升空瓶を以て通行中の三浦長市及鈴木熊太郎を殴打し兩人に全治三週間の裂傷を負はし平區香西判事より略式罰金二十圓に處された

鰯漁に六雙出帆

根室の海を目指して 北方進出のトップ

四倉町漁船善寶丸、金比羅丸、稲荷丸、昭平丸、山田丸及び小名濱町共徳丸の六隻は今回水産試驗場の斡旋で某社との契約が成立し漁夫三百十名が乘組んで七月一日朝北海道根室灣の鰯漁に出帆するが本縣鰯漁船の北海道進出にトップを切つた前記漁船の成績が良ければ今後は毎年此の漁業に馬力をかけるべく注目されて居る

調停裁判の改善

けふ平區裁判所で座談會

平町在住金錢債務調停委員座談會は今廿九日午前十時より平區裁判所に於て石井福島地方裁判所長臨席の下に開かれ左記項目に付有意義な意見を交換した

△從來の調停取扱振りに鑑み委員の必要と認める事項及びその他改善すべき点如何△調停條項履行の確實を期する方法△本方法に對する公衆の感想如何

JOAK 仙台放送局 明日のラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 うたのおけいこ 四家文子

▼後六、二五 講演「義太夫を語る心境」竹本津太夫 太棹雜感鶴澤友次郎 丸ノ内工業倶樂部 淨曲協會結成式々場中繼

▼後七、三〇 義太夫 野崎村竹本土佐太夫他

▼後八、二〇 浪花節 週間「赤垣源藏形見の德利」敷島大藏

▼後九、〇〇 時事解説 芦田均

▼後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

▼前九、三〇 うたのおけいこ「オチャワンのラヂオ」

▼四家文子

▼前一〇、〇〇 日曜勤行「大殿上供」大導師關義道

▼前一〇、四〇 講演「日本の建築と工藝」ブルノ ータウト

▼前一一、一〇 趣味講座「鮎釣解禁を控へて」勝本正晃

▼後〇、五〇 滿洲より（新京）講演「滿洲國專賣制度に就て」難波經一

▼後一、二〇 女流演藝の午後 一、常磐津「今様夜討曾我」常磐津清子 二、清元「道行浮世鴎」梅夏代 三、哥澤「夏木立」外 芝加美津 四、長唄「風流船揃」杵屋勝佐外

▼後二、五〇 新作風景琵琶「棄兒行」窪田錦亮

▼後三、一五 長唄「常磐の庭」杵屋彦登志

▼後六、〇〇 子供の時間 管絃樂「野球行進曲」外數種 東京オーケストラ

▼後七、三〇 實況收送「河鹿と河千鳥の啼聲と箏胡弓」

▼後八、〇〇 仙臺附近遊覽案内くらべ

▼後八、五〇 浪花節週間（第四日）「人道の鑑巡査と車夫」津田清美

▼後八、二〇 浪花節 週間「赤垣源藏形見の德利」敷島大藏

▼後九、〇〇 時事解説 芦田均

▼後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

▼前九、三〇 うたのおけいこ「オチャワンのラヂオ」

天氣豫報

今晩も明日も南西の風天氣に良くなる

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雜誌が 自由に讀める 川崎巡回文庫 電六三〇番 （申込次第規則書進呈）

看護婦急派 求めに應じ ます 平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

明治太平記

(無斷轉載上映及上演)

(作) 寺島柾史
(畫) 野口彌

第百六十二回
運命と戀(一)

『おとわしやん。決して』
だが、こんな所に愚圖々々してゐては、やがて不幸な結果をまねくことを、ウエルズははつきりと悟つた。
今に、バークスが歸つて來るからだ。
――さうだ、バークスの戻つて來ぬ間に、逃げよう
ウエルズは、氣を失つてをるおとわを、かるゝと抱いたまゝ、片手をのべて呼鈴の紐を引いた。
すると、それへ支配人が顔を出した。室の光景を一目見るなり。
『おう』
と、叫んで、ドアのところに釘づけにされた。
『馬車の用意を、早く』
ウエルズは、性急にうながした。
『は、はい……おとわさんを、どうなさいました?』
『よいから、早く、馬車の用意をしてくだしやい』
『バークスさんが……』
『よい、バークスなぞ』
おとわの、死の夢は、まださめぬ。
――それより少し前、支配人が茂平次を誘つて來たのはホテル館の食料品倉庫、茂平次は澁面つくつた。
『こんなところへ、隱れろといふのかい』
『はい、暫くこれに隱れてゐなさるとよい。なんぼ巡察のこはい眼だつて、此處まではとゞきますまい』

『わしは、巡察の五人十人恐れはしないが……』
『ですけど、それぢアおとわさんが困ります』
『……』
茂平次は、支配人の開けてくれた倉庫のドアのうちへ入つて行つた。
内部は、まつくらがり。
『おい暗いぞ』
『暫くの、ご辛抱……』
支配人は、重い鐵の扉を外から閉めてしまつた。
『おい、石油ランプでも持つてきてくれんか』
扉を押したが、微動もせぬ。すぐに、外から嚴重に錠をおろしたらしい。
――はてな……。
彼は、やみくもの中で小首を傾けた。疑惑がひろがつて、暗やみの中で、ひとつの形を成した。
彼は、もう一度、鐵の扉を押して見た。手もとへ引いて見た。が、微塵もゆるがぬ。
『おい、開けて呉れ』
しかし、支配人はもうその場を立去つたらしい。
『おい』
と、今更ら叫んでみたところで遲い。うまく、支配人に謀られたのだ。巡察の一隊が、押かけて來たのではなく自分の手からおとわを何者かが奪はうとして、支配人にそれを命じたに違ひない……と、思ふと、無性に腹が立つた。
――おのれ
三度、鐵の扉を押した。こちらの計略通り、うまくバークスに會つてくれるといゝが萬一他の者にかどわかされる樣な事になれば折角のおとわの苦勞も水の泡だと思つた。

店主が店員を連れて行かれる
正シイ食堂
正シイ喫茶
正シイ酒場
平・田町 レストラン サロン 電三五二番

難波醫院
內科一般
醫學博士 難波睦
看護婦募集
平町大町新川端 電五〇二

夜診 療間
胃腸 內科 胃腸病科
性病 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村 胃腸 性病 科院
(平町南町一七〇番)

丹野齒科醫院
丹野淳夫
平驛前 電話三八五番

自轉車は左記
有名車を御撰擇下さい
世界的ニ進出セル
◎宮田ノ自轉車
夙ニ堅牢輕快ノ定評アル
◎ゼブラノ自轉車
實用經濟車トシテ好評アル
◎マーツ號自轉車
◎マーツ號の好評をねたみ羊頭狗肉の策を用ひ僞物を販賣なし商權を侵害なしつゝある者あり法的解決により御得意樣ハ御了解を得ん
宮田代理店 ゼブラ代理店 マツー代理店
エビスヤ商店 電六六四

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士 鈴木正男
平町田町(電話五八番)
藤田女學校前
自炊のお需めに應ず 入院の便あり

外科 專門
X光線科
上田外科醫院
平町南町 電話一二九番